

協同製作について

東京市立
淡路幼稚園

北 條 静

「めくら蛇におどす」。こ申しませうか。私の様な者が研究発表等之餘りに厚顔ましい次第でございますが、「研究」

こいふ言葉を、幼稚園らしく離れて、日々の生活を皆様の前に御目につけて、御忌憚なき御批評を贈り、今後とも御指導戴かうと、今回女子師範に於て立てて戴きました様な次第でございます。

一 個人手技製作と協同製作

今日幼稚園の手技につきましては色々の研究が行はれ、各方面で手技要目、手技配當表と言ふ様な物が作られて居ります。所がそれ等は誠に行き過ぎ過ぎ過ぎた、いわば「保姆虎の巻」でありまして子供側から見ますと、唯作る。作らされる。と言ふ事が本體となり、その手技の中で子供をどう生活させるか。子供の創造力をどう發展させるか。こ

言ふ生活的意義が、いさゝか無視されて居る様に拜見するのであります。

第一箱。次は籠。次は御家。と言つた様にその間には殆ど何の關係もなく、小學校の教材の様な具合で、一様に同じ物を作つては家へ持つて歸へる。と言つた全く個々の個人手技製作が幼稚園の手技の大半をしめて居る様であります。ところが幼児の實際を見ますのに、電車を作れば動かさずには居られない、更に乗つて車掌に、御客様にならずに居れない。あの幼児生活性。又、椅子を並べては汽車を作り、紙切れを切つて直に切符が出来。空箱をかゝへて「御辨當、おすし」こやりだす、あの子供の發展性。これ等を手技の中に取り入れる事は出来ない物であらうか。汽車なら思ふ存分乗つて走れる物を。何々の積りよ。で我慢してもらう代りに、その積りの物を手技として取り扱ふと言ふ事

はどんな物であらうかご考へるのであります。

しかし子供が充分に生活し、發展する。爲には、ある「大いさ」を「廣さ」を求める譯であります。従つて從來の個々の個人製作をそのまま大きく廣くして行くと言ふ事は當然不可能な譯でさうしても團體として大きく廣くして行くより外ないのであります。

こゝに協同製作が生じるのであります。

即ち協同製作は幼児の生活性發展性を尊重し、それより出發して製作の目的である題目を定めます。

その題目を充分満たす爲に、次々へ製作を發展させて行く方法なのであります。例へば子供の最も興味を感じるあの汽車遊びを製作の目的に定めます。汽車遊びから直に浮ぶ物は、あの切符賣場。プラットフォームあの賣子の聲。御菓子を買つた賣店等々そこにはおすしがあり、御辨當があり、牛乳があり、新聞もあつた。

そう言つた次々に浮んで來る品々を手技として取り扱つて行くのであります。同じ箱を作るのでありまして、只譯もなく作らされる場合も、おすしを入れる折がなくては

と言ふわけで作るのこではそこに生活的意義を持つ事に於て非常な差を生じるご思ひます。

而して之れが賣店を作り御辨當やを作り、子供の生活の中に入つて行くのであります。

二 題目の選擇

題目は一體何かご申しますご誠に妙な言葉を用ゐましたが、製作の目標であります。これは大體二つの方面から選び得るご存じます。即ち、

1、幼児の生活環境から生じる「社會興味」の中より選ぶ。

例 汽車遊び、商賣遊び、等々。

2、季節。年中行事等の社會條件の中より選ぶ。

例 お節句、御祭、等々。

社會條件より參ります題目はいさゝか定まつた形にもなりますが、子供の社會興味より選びます題目は誠に定めなく、限らない物であります。かつて、ツェツペリンが飛んだ當時、子供の繪は面白い程どれもツェツペリンが飛んで居ました。又、最近に於きまして、肉弾三勇士が出るや、子

供の遊びは忽ち三勇士になりました。あの幼児性をこらえて、その事、その子達に最も適合した題目を選ぶべきであります。

三 製作過程

次に製作過程三名附けましたがどんな具合に製作が進んで行くかご申します。

1、題目の選擇。この製作になれて参ります。幼児自ら題目を選びますが大體は保姆があれを仕様さまつ目標を定めます。

2、幼兒ミ話し合ひ題目の中に幼兒をひき入れる。即ち幼兒にその題目を理解してもらうのであります。

3、誘導性のある、題目の中心ミなる仕事より始める。

4、幼兒の創造性を誘導して仕事を發展させる。

5、題目の發展性及び幼兒の興味次第で進展、繼續する。

例へば動物園ミ言ふ題目を定めます。動物園について色話し合ふ時、ある子は象の鼻を。ある子は御猿を。又變つた子は茶店の事を考へたり。それづくに動物園の何かを考へて居るのであります。この中から最も中心ミなる動

物から作り出します。動物を作れば必然的に檻も。えさも。ミ進んで行きます、そして自由に活動出来る動物園が出来上つて行く譯であります。

四 保姆の態度

保姆はどんな位置に居るべきかご考へますのに。

1、題目について充分研究をなし製作方法、發展コース等をしつかりつかんでから著手する。

2、機會をこらえて幼兒の創造性を巧に誘導し仕事を發展させる。

3、幼兒の創造性を方法に於て充分立體化してやる。

等その名の示します通り誠に保姆は常にその仕事の一協議員として幼兒ミ共に活動して行く譯であります。更に幼兒の創造性は實に天才的の物ではありませんが、極めて内部的ミ申しませうか、外に向つて發表する、方法ミして表現するミいふ點になるミ大變むずかしいのであります。そこで保姆はすべてに於て幼兒より一步先にその製作を完了して居なければならぬ譯であります。

唯保姆の手段方法は最後の物であつて、まず幼兒にあた

つて見る言ふ事を考へ度いのであります。

五 協同製作の特色

かくの如くこの製作が非常に生活的であり、誘導的である言ふ事を申し上げましたが尙實際致します時に見出します特色を二ツ三ツ上げます。

- 1、製作に對する「厭」を感じない。
- 2、束縛なく常に自由である事。
- 3、製作上の事物に對し、觀察的態度を持つ。
- 4、幼兒に創作の餘地を與へる。
- 5、互に協力し、結果の偉大さを見る喜び。
- 6、日々の生活がきれ々にならず、幼兒自ら製作の時を作る。

等々色々あげられるに存じます。幼兒は新らし物好きに申しませうか、變化を好む性質を多分に持つて居りますので、方法、材料等誠に千變萬化、多種多様なこの方法はそれだけでも充分幼兒にうけられるのであります。

六 製作上の注意

この製作を致して居りますに、ごなたからも御質問を受

けます事は仕事の分擔言ふ事でありませう。

ところが實際上には殆ど感じない極く自然な事でありませう。これが自分の仕事と與へられればこそやり度くないので誰ぞ定まつてない言何でも外の人のして居る事が、やり度くなつて參る幼兒なのでございます。

しかし私共は(ご申し上げては失禮ですが)三角結果の美を尊ぶ爲にこそすれば仕事の上手な、創作力の豊かな子をより多くさせて仕舞ふ傾があります。そこで保姆の爲に、幼兒一覽表、或は個人日誌等つけて、一製作中に幼兒全體の力を等分に入れる様に致して居ります。

尙この製作は入園後少くとも一學期位経ちませんに不當で年少組の二、三學期及び年長組がこの製作期に存じます。

七 題目の實際について

(A) 季節及び年中行事より取りたる物。

◎御正月の遊び

イロハ歌留多。(文句も繪も幼兒が作りあげる)

双六。(自由畫、切紙等を基に、廻り双六、飛び双六)

自分達の手で作つた歌留多、双六等で遊ぶ事は誠に興味ある事である。

◎雞祭り

先ず雞人形から始めて、御道具から、御供物に至るまで、あれやこれやを發展する。
空箱等利用し、立體的な物を作れば、立派な雞段が出来上る。

◎端午の節句

鯉織り一揃ひ。模造紙をつぎ合せて實物大の幟を作れば、庭に立てるに充分立派な幟が出来る。ふき流しも、風車も、作らずには居られない。

鎧。兜。一揃ひ。

茶ボール等で作る。一枚一枚に各自の手が入つて興味深い物が出来る。

◎七夕祭

一般的な物故、説明をはぶく。

◎御祭

御祭の御花、提灯を作つて室の人口にさげ「保育室通り」

を作る。

おみこし

ふれ太鼓

獅子舞

骨組は保母の工夫で作り上げ、裝飾を子供の製作にする。

花がさ。まんぎ。團扇（おみこしあふぐ爲の）等。

子供は提灯のついた保育室通りを通る度毎にあれも、これも、望が増して、誘導から誘導、御祭の光景そのまゝが取り入れられた譯である。

◎七五三の御祝ひ

室の一隅に御宮を作る。

その兩側に飴屋を作る。

御宮から發展して神主の帽子、御供物、御賽銭箱等々發展する。

飴屋も單に袋を作り、飴を作る製作に止らず賣買の遊びへ發展し、財布等の必要も生じる。

◎大角力

角力場を作る。

最負々々の角力を作つて勝負させる。

軍配團扇。

◎スキー場

スキー人形。山小屋。樹木。

(B) 子供の社會興味より取りたる物

◎動物園

保育室を一時動物園とする。

動物作りから出發して、檻。柵。園内の樹木。茶店(更に茶店の品物)。出入口。切符賣場。更に動物の餌。動物園に遠足する御辦當。等々(まで限りなく誘導される)。

◎釣り

室の一隅に海邊を作る。

御魚を作つてはなす。

釣り竿をかついでは、幼児の大公望が出掛ける。

魚の餌。えさ入れ。びく。ついには網まで作り度いと言

ひ出す子供達である。

一時間十錢等ミ札が立ち、何時の間にか釣り堀になつたりする。

◎JOKK

マイクروفオン、ラデオセット等々。

單に放送の遊びをして活用されるばかりでなくまごご遊びの家具として利用する。

◎人形遊び(特に女兒)

人形メリーさんを中心とする仕事の發展。

メリーさんの家の室内裝飾。家具。調度。

メリーさんの服飾。

◎兵隊遊び(特に男兒)

帽子。ランドセル。劔等々々。

或時は將校に、或時は一兵卒に、服裝をつけて遊べる喜

びは限らない物である。

終には水兵さん、巡査に改造する子も出来る。

◎商賣遊び

呉服屋。本屋。花屋。菓子屋。八百屋。玩具屋。下駄屋。

時計屋。等々

商品。店頭の裝飾。賣買ひ遊び。更に賣出しの廣告くばりから、チンドン屋までくり出す。

◎デパート。ストア。

商賣遊びが發展し、幾つかの店が總合して、デパートミ

なる。食堂。エレベーター、商品券、會計場、包送紙。色々の方面へ進展する。

◎食堂

食堂内の裝飾。

食品。食器。コック。ウェイターの服飾。

更に出前等、思はぬ方向へ誘導される。

◎汽車遊び

賣店。新聞賣り。改札口。切符賣場。驛の辨當賣り。等に關連して賣店の品、賣子の品等製作は限りない。

以上は今まで致しました製作をほんの並べたに過ぎない物でありまして、實際致します時には、次から次へに、誠に興味深く進んで行くのであります。如何に誘導されるかと言ふ順路。生活と製作のつき合ひ。等につき御説明申し上げるべきであります。生活そのものを主體として居りますこの製作に於ては「實際」以外に現はし方がないので、こゝには唯「製作の姿」と言つた様な、極く外観的な物だけ記して御許し戴く次第であります。

尚一つ一つの方法につきましては、又後の機會に書かせて戴く事として、唯方法としては常に「實際に最も近く」。したがつて、出來得る限り「立體的」、「活用的」を第一と致して居ります事を御了解戴き度い存じます。

さうか製作を幼兒のお細工と言つた小さな物として仕舞はずに製作即生活、生活即製作といつたもつこ大きな活用的な物として行き度い願う次第であります。

誠に御はすかしい次第でございますが、以上が私のつたない發表でございます。何卒御教導の程を。

尙當日實物として持參致しました鯉轆りは眞鯉、緋鯉、

共に模造紙全紙三枚つないで作りました物で長さ約二間。

それに眞鯉は黄色のざろ繪具。緋鯉は墨で畫きまして、うろこを切紙ではつた物であります。

全部幼兒の手になる物でありまして、それが風をはらんで空を泳ぐ姿を御覽に入れ度いと思ひますが、寫真も取りませんでしたので……。たつた一つ「御祭」で作りましたおみこしが寫真に致して置きましたので、ほんの御愛嬌にの

せさせて戴きます。

これは角力場を屋根だけ塗り更えて工夫した物で、妙な形をして居りますが、四方は金紙に鳥居等切紙で裝飾し、おかざりは輪つなぎをさげました。極めて簡単な物であり



ますが、總て子供の手で致してあります。

御江戸神田。のいわゆる「神田ツ子」の意氣を御覽下さいませ。

以上研究二編は研究發表會(雜錄參照)に於いて發表されたものです。

會告
八月號休刊

本誌八月は休刊し、九月に於て兩月號を合冊發刊することにいたします。

皆様いよく御健やかに、このよき夏を楽しくおすごしになりますやう御祈り申し上げます。

昭和九年七月

日本幼稚園協會